

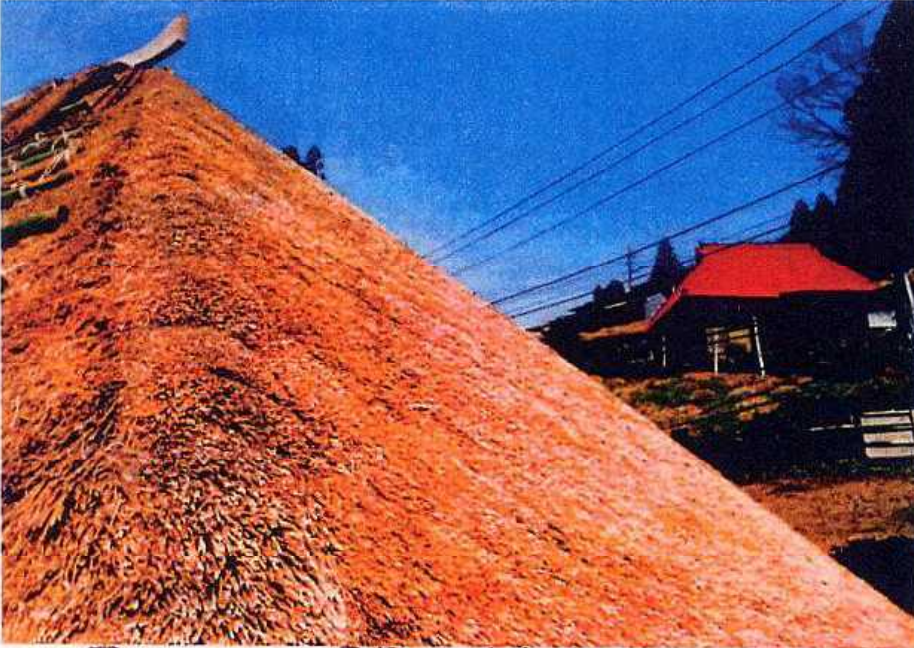
てん新聞

09.4.No143
発行 市岡日出夫
責任 0883-88-5292

重伝肆に指定されている落合地区に、茅葺きの民家が再生されました。先号でもお知らせしてまいりましたが、二月十六日から葺きかえの工事を開始し、三月二十四日に美しい茅葺きの家が落合地区に再現されました。屋根葺き職人さんの指道のもと、東祖谷の会社が甲心に、祖谷の人々の手によつてよみ

落合長岡家

古茅葺き再生



祖谷の風景

かえつた茅葺き民家、あと、数ヶ月にわたつて、内部の再生を完成し、今後落合地区は言うまでもなく、東祖谷地区のシンボルとして、国指定の小栗家、木村家そして武家屋敷と共に活用されることとしよう。現状、茅葺きの家に住んでいる家は数軒しか残っていないので、茅葺きの技術をはじめとした生活の知恵が、まさに跡絶えようとしている時に、大きな意味があります。時に、長岡家の葺きかえには、二十代の若者が三人も参加し、大きな力とほり、彼らが今後、なんらかの形で茅葺きの事業に参加出来るならば、落合地区の次々と茅葺き民家の再生が大きな前進することとわります。それには、落合地区の自らの考え、祖谷への愛着度が問われ、こゝとは間違いなさそうです。



徳島

NPOフォーラム 第3回 分科会

祖谷で開催

第3回徳島NPOフォーラム分科会が三月十四日と十五日の二日間開催。徳島県西部での開催は、はじめて。今回は、大田昌也さん(市民と暮らす、研究所長)の基調講演。口と知恵を出し、身銭をきって汗を流すことが大切との話が印象に残りました。二日目は、三好市内4ヶ所分科会を、実施。分科会は、東祖谷。当日は、久し振りの好天、ちいおりの恩恵より眺め、協議会長長南さんに説明をうけの左の(写真)、大技武家屋敷へ、昼食は、地元の皆さんの手作り、祖谷のばやフキントウのテニープラなど。午後、田舎を歩くと、物、人への丁寧な接遇(右上の写真)。二日間の話し合い、交流会が、この日だけの事であり、自らが行動しない限り、あつたならば、無駄使いです。

